

はじめに

はじめまして

京都で遺品整理の仕事をしています北川温子と申します。

遺品整理と聞かれると最近でこそ、みなさん、ご存じだとは思いますが、

この仕事を始めた当初は「遺品整理って何ですか?」とか「どんなお仕事ですか」とよく聞かれました。それだけ聞きなれない言葉だったのです。

遺品整理というのは「形見分けするもの」「保存するもの」「処分するもの」というふうに整理していくことを言います。

遺品というのは、亡くなられた方が使用されていたもの、持っていていらつしやったものすべてを指します。それこそ、お箸から湯のみ、調味料、食材、鍋などの台所用品、枕、布団、家具などの生活用品、大きいものなら、家、土地などの不動産、車などがあります。

一昔前は大家族で暮らしていた背景がありましたから、兄弟姉妹、親戚、親しい人などで形見分けをして、あとは使わないものでも今すぐ処分する必要がなければ納戸にしまい込み、本当に不要なものだけを処分するということで終わっていたと思います。

現代社会は核家族と言われ、住まいも生活も親世代とは別というのが普通になってきています。ですから遺品整理となるとその分時間と労力が必要になってきているのが現状です。

家の中にあるものすべてを二世帯分、あるいは三世帯分抱えることになってしまいます。今の家庭事情ではすべてを抱えることなんて無理ですよね。ましてや賃貸住宅なら家賃が発生してしまうので、そのまま家に置いておくことはできません。また持ち家だとしても、それが相続対象になっていて処分しなければならない場合、あるいは相続対策で貸家にするといった場合、家の中を空っぽにしなければいけません。そのため短期ですべて処分しなければいけないことが最大の課題となってきています。

普段、一緒に生活していればどこに何があるか、何を大切にしているか、およそはわかるでしょうけれどそうじゃない場合は、まず大切なもの、例えば現金、保険証書、証券、土地権利書、通帳、印鑑などを探さないといいけません。そして何を形見分けするか、何を保存するか考えなければなりません。

みなさんそれぞれに家庭があり、仕事があり、いろいろな用事もあり時間を割いて遺品整理をすることができなくなってきました。ましてや居住地が遠く離れていては休みのたびに実家に向くとということも難しくなってきました。そういった背景から遺品整理のあり方も変わってきています。

あなたにとって遺品整理はどんなイメージだったでしょうか？

遺品整理は本来お身内がなさるものですが、家族のあり方の変化とともに廃棄処分複雑さから専門業者に依頼することが多くなっています。

そこでは亡くなられた方のお人柄を遺品から知ることができます。

几帳面な方だったり大雑把な方だったり、ここをこだわらたかったのね！とか、こういうことを一生懸命されていたのですねとか、あるいはお料理がお好きだったり、裁縫がお得意だったりとか、そういったことから亡くなられた方を身近に感じながらお片付けさせていただきます。

また、おうちの中のことは、そうそう他人と比較することはないので、自分の物差しで考えれば「なぜに？」と思うことが多々あります。

例えば使わないというより使えなくなったものを大切にしまつてあるとか

これの代わりになるものは他にもあるのになぜこれなの？とか、自分の価値観とは違った新しい発見であったり、「そうそう！昔はこうして再利用してた！」とか納得したりと実に多種多様であります。

またいろいろな現場からさまざまな人間模様も垣間見たりします。

孤独死の現場であつたり空き巣に入られたような現場であつたり、ゴミ屋敷と化してい

たり、喧嘩別れした身内のために嫌々葬儀をしたら大金が残されていたとかドラマのようなお話もあります。

近年、不要品を処分するにも難しくなってきたり、思っている以上に金額がかかったりします。家の中を見回して本当に不必要なものがないか、納戸の奥や台下、天袋、天井収納庫など、ご本人にとって見られたくないものなど元気なうちに片付けられることをお勧めしたいと同時にあなたが亡くなられたときにそれを引き受けられる方に結構な金額がかかることを念頭に置いておいてもらえればと思います。

また夫婦関係、親子関係、ご親戚関係、ちょっとした心の掛け違いで複雑になり疎遠になったりすることが多いでしょうが生きているうちに少しだけでも距離が縮まればよかったのにと感じるがあります。

この仕事に携われれば携わるほど終活の大切さに気づき、本当に必要なものだけを残していくことがご本人にとっても周りの方にとっても一番いいことではないかと思うと同時に

遺品はゴミではないことを知っていただきたいと思います。

この本では終活のポイントや実際にあつた現場の出来事、終活についていつすればいいのか？ などのさまざまなることをわかりやすくお伝えしていきます。

この本を読み終わられたときに遺品整理の本当の意味、自分たち家族のあり方など家族でお話ししてもらえるきっかけになればありがたいと思います。